

# 「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件について —制作動詞の意味特徴の観点から—

趙宏剛

## 1. はじめに

以下の例(1)、例(2) (下線は引用者による)のように、現代中国語の「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式<sup>1</sup>は、状語(A)が述語の前に置かれているにもかかわらず、その意味指向<sup>2</sup>の対象は賓語(NP<sub>2</sub>)であり、状語として用いられている状態形容詞の“圆圆”、“嫩嫩”は定語として直接賓語を修飾することもできる(“圆圆的圈儿”、“嫩嫩的蛋”)。このような形式について、吕叔湘(1986:2)では、“应该是定语的词语跑到了状语的位置上”[定語が状語の位置に移動したと見なすべきである]と指摘されている。

(1) 他圆圆地画了个圈儿。 (陆俭明 1993:56)

[彼はまん丸く円を描いた。]

(2) 她嫩嫩的蒸着一碗蛋。 (李劲荣 2007:333)

[彼女は玉子をふわふわに蒸している。]

「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件を説明するにあたって、郑贵友(2000)は当該形式におけるVはNP<sub>1</sub>が行なう「制作」義を有する動作・行為でなければならないと指摘した上で、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式におけるNP<sub>2</sub>はVの「制作結果」あるいは「製品」

<sup>1</sup> 「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式におけるNP<sub>1</sub>は主語として用いられる名詞フレーズ、Aは状語として用いられる状態形容詞(朱德熙(1956)でいう乙類複雑形式の形容詞を指す)、Vは動詞、NP<sub>2</sub>は賓語として用いられる名詞フレーズを指す。

<sup>2</sup> 「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の意味指向に関する研究には、张力军(1990)、陆俭明(1993)、王立弟・顾阳(2000)、张国宪(2005)などがある。

であると述べている。

また卢建(2003b:74)も郑贵友(2000)と同様、当該形式は動作主が意識的な動作・行為を通して新しいモノを作り出し、この新しいモノの出現とともにある種の状態変化がもたらされるという構文的意味を有するため、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式における動詞は「制作」義を備える他動詞でなければならないと指摘し、このような意味特徴をもつ動詞を“制作動詞”[制作動詞]と定義している。換言すれば、Vが制作動詞<sup>3</sup>であることが「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式が成立する基本条件となっている。

しかし、制作動詞の統語的振る舞いについては、従来「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式において検討されるにとどまっており、上の例(2)のような「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式においてはあまり注目されてこなかった。後者に関しては、次の例(3)のように、制作動詞“蒸”[蒸す]が用いられて成立する場合もあれば、例(4)のように、同じく制作動詞“打”[造る]が用いられているにもかかわらず、容認度の低い不自然な文になる場合もある。このように、「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式の成立可否には対立が見られる。

(3) 她嫩嫩的蒸着一碗蛋。 (例(2)再掲)

[彼女は玉子をふわふわに蒸している。]

(4)?王铁匠长长地打着一把剑。<sup>4</sup>

本稿では、制作動詞の意味特徴および制作動詞と賓語の意味関係を再検討し、「制作動詞+了」、「制作動詞+着」の統語的制約に焦点を当てつつ、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件を明らかにする。加えて、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式における状態形容詞(A)と制作動詞(V)との共起関係についても考察を試みる。

なお、広義の「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式には、“墙上端端正正地挂着孔子的画像。”[壁にはきちんと孔子の肖像画が掛けられている]のように、Vが制作動詞ではない表現も含まれるが、本稿では、Vを制作動詞とするタイプの構文のみを考察の対象とする。<sup>5</sup>

<sup>3</sup> 「制作動詞」という用語は、卢建(2003b)に従う。

<sup>4</sup> 例(4)は、「すでに造られた剣を打ち直す」場合であれば成立する。

<sup>5</sup> 郑贵友(2000)は、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式をVとAの意味特徴によって以下の通り、“制作类”(A)、“呈现类”(B)、“感知类”(C)の三類に分類している。本稿が考察対象とするのは(A)タイプのみである。

(A) 张木匠大大地造了一辆二马车。[大工の張さんは馬車を大きく造った。]

(B) 书架上整整齐齐地放着一些书。[本棚には整然と本が置かれている。]

(C) 他热热地喝完了一杯咖啡。[彼は熱そうにコーヒーを飲み終えた。]

## 2. 制作動詞の分類と意味特徴

### 2.1 制作動詞と賓語の意味関係

郑贵友(2000)および卢建(2003b)では、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式で用いられる制作動詞として以下のような例が挙げられている。

- (5) 打[打つ]、挖[掘る]、盖[建てる]、包[包む]、刻[彫る]、造[造る]、蒸[蒸す]、熬[煮つめる]、炸[揚げる]、腌[塩漬けにする]、煮[煮る]、织[織る]、绣[刺繍する]、炒[炒める]、煎[(少量の油で)焼く]……

(郑贵友 2000:79-80)

- (6) 炒[炒める]、炸[揚げる]、熬[煮つめる]、做[作る]、沏[(熱湯を)かける]、画[描く]、写[書く]、编[編む]、烙[焼く]、包[包む]……

(卢建 2003b:74)

まず、例(5)と例(6)の制作動詞が用いられた以下の例を比較してみよう。例(7)、例(8)は自然な表現として成立するのに対し、例(9)、例(10)は成立しない。

- (7) 盖了一座楼

[ビル一棟を建てた]

- (8) 画了一幅画儿

[一枚の絵を描いた]

- (9) \*盖着一座楼

- (10) \*画着一幅画儿

例(7)、例(8)のような動賓形式は、動詞Vによる産物として賓語の指示物NP<sub>2</sub>が外界に〈出現〉するという意味特徴を備えており、“盖了一座楼”と“画了一幅画儿”は“盖”[建てる]、“画”[描く]することで“一座楼”[一棟のビル]、“一幅画儿”[一枚の絵]が〈出現〉するという事態を表している。“一座楼”と“一幅画儿”は“盖”、“画”によって現れるモノ(制作結果)——すなわち結果賓語であり、あくまでも完成した状態のモノを指すので、“盖”、“画”という

動作・行為以前および遂行中に“一座楼”、“一幅画儿”は存在し得ない。それゆえ、動作が遂行中であることを示す“盖着”[建てている]、“画着”[描いている]が用いられた例(9)、例(10)は成立しない。

次に、例(11)～例(14)を見てみよう。

(11)煮了一头猪

[一頭の豚を煮た]

(12)烧了一壶水

[やかん一杯の水を沸かした]

(13)煮着一头猪

[一頭の豚を煮ている]

(14)烧着一壶水

[やかん一杯の水を沸かしている]

例(11)～例(14)の“一头猪”[一頭の豚]、“一壶水”[やかん一杯の水]は、動作・行為以前にも存在するモノであり、“煮”[煮る]、“烧”[沸かす]といった動作・行為を直接受ける対象になっている。従って、例(13)、例(14)の“一头猪”、“一壶水”は“煮着”[煮ている]、“烧着”[沸かしている]の加工対象を表す対象賓語<sup>6</sup>であるため、先に挙げた非文の例(9)、例(10)とは異なり、例(13)、例(14)は自然な表現形式として成立する。

このように、例(7)～例(10)の“盖”、“画”のような制作動詞の類いは結果賓語以外をとらないのに対し、例(11)～例(14)における“煮”、“烧”のような制作動詞の類いは対象賓語をとることが分かる。

## 2.2 制作動詞の下位分類と意味特徴

前節で考察したように、制作動詞(V)と後続する賓語(NP<sub>2</sub>)の意味関係が「NP<sub>1</sub>+A+V着+NP<sub>2</sub>」形式の成立に影響を及ぼすという事実は、これまで先行研究において一括りに挙げられてきた例(5)、例(6)のような制作動詞に対し、細分類する必要があることを示唆している。本節では、制作動詞(V)と後続する賓語の意味関係によって制作動詞(V)を大きく

<sup>6</sup> 「対象賓語」という用語は、邢福义(1997:75)に従う。

2 つに分類し、その意味特徴を明らかにする。

1 つは、後続する賓語が結果賓語に限られるタイプの制作動詞である。次の例(15)がこれに該当する。

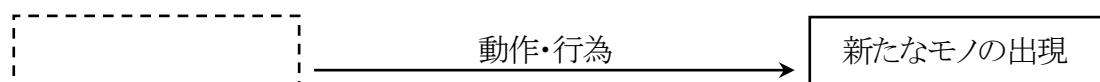
- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| (15) 捏:捏泥人[泥人形を指でこねて作る] | 绣:绣花[模様などを刺繍する] |
| 折:折飞机[紙飛行機を折る]          | 织:织毛衣[セーターを編む]  |
| 垒:垒墙[壁や塀などを築く]          | 编:编竹筐[竹かごを編む]   |
| 包:包饺子[水餃子を作る]           | 酿:酿酒[酒を醸造する]    |
| 盖:盖楼[ビルを建てる]            | 挖:挖井[井戸を掘る]     |
| 架:架桥[橋をかける]             | 沏:沏茶[茶を入れる]     |
| 造:造船[船を造る]              | 打:打剑[剣を造る]      |
| 刻:刻字[字を彫る]              | 炼:炼铁[製鉄する]      |

この種の制作動詞に後続する賓語が示すものは、動作・行為以前には存在せず、動作・行為を通して初めて新たなモノとして現れる。例えば、例(15)の“泥人”[泥人形]は、“捏”[こねる]という動作・行為以前は存在し得ず、“捏”という動作を通して初めて形が現れ、最後に完成した新たなモノとして認識される。

このように、例(15)に挙げる制作動詞は「動作・行為を通して新たなモノを〈無〉から〈有〉への事態変化を経て外界に〈出現〉させる」という意味特徴を有しており、本稿では、この種の制作動詞を「A 類制作動詞」と称する。

例(15)の制作動詞の意味特徴を図式化すると以下のようなになる。

【図 1】



もう 1 つは、次の例(16)のように、後続する賓語が対象賓語をとるタイプの制作動詞である。

- (16) 腌:腌白菜[白菜を(塩などで)漬ける]    炸:炸花生米[ピーナッツを揚げる]

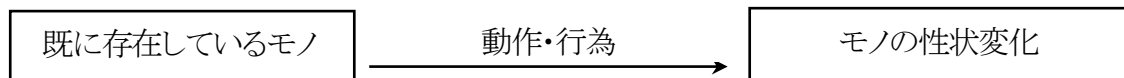
煎:煎魚[魚を(少量の油で)焼く]	焖:焖肘子[豚のももの肉を煮込む]
熬:熬中药[漢方薬を煮つめる]	蒸:蒸馒头[マントーを蒸す]
煮:煮餃子[水餃子を煮る]	漂:漂衣料[生地をさらす]
炒:炒菜[野菜を炒める]	削:削鉛筆[鉛筆を削る]
烤:烤羊肉[羊肉を焼く]	彈:彈棉花[綿打する]
炖:炖肉[肉を煮込む]	染:染布[布を染める]
烙:烙餅[“餅”を焼く]	烧:烧水[水を沸かす]

この種の制作動詞が示す動作・行為は既に存在しているモノに対する加工を表す。例えば、例(16)の“水”[水]は、“烧”[沸かす]という動作によって〈出現〉したモノではなく、動作が行われる前にも存在しており、“烧”という動作を受けて性状変化が起き、最後に“开水”[熱湯]になるのである。

このように、例(16)に挙げる制作動詞は「動作・行為以前に存在しているモノに対し、動作・行為を加えることによってそのモノの性状(性質、状態)に変化をもたらす」という意味特徴を有しており、本稿では、この種の制作動詞を「B 類制作動詞」と称する。

例(16)の制作動詞の意味特徴を図式化すると以下ようになる。

【図 2】



### 3. 「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件

#### 3.1 「制作動詞+了/着」と賓語の意味関係から見た成立条件

本節では、「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式と「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件について考察する。次の例(17)と例(18)を比較してみよう。

(17)\*小李松松地编着条辫子。

(18)小李松松地编了条辫子。

[李さんはゆるめに一本のおさげを編んだ。]

例(17)、例(18)では共に制作動詞“編”[編む]が用いられているにもかかわらず、例(18)が自然な文として成立するのに対し、例(17)は成立しない。既述のように、A 類制作動詞のとする賓語は制作結果を表す結果賓語に限られる。制作結果の〈出現〉は動作・行為の完了を前提としているため、A 類制作動詞はアスペクト助詞“了”を伴った完了相である必要がある。つまり、例(17)において“編着”[編んでいる]という動作が遂行されているうちはその制作結果である“一条辫子”[一本のおさげ]は存在し得ないため、“編着条辫子”[一本のおさげを編んでいる]は非文と判断される。このように、A 類制作動詞は「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式では用いることができず、「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式でしか用いられない。

次に、例(19)と例(20)を見てみよう。

(19) 奶奶香喷喷地烙着一张葱油饼。

[おばあさんは香ばしく“葱油饼”を焼いている。]

(20) 奶奶香喷喷地烙了一张葱油饼。

[おばあさんは香ばしく“葱油饼”を焼き上げた。]

例(17)が非文であるのに対し、例(19)は自然な文として成立する。例(19)の“葱油饼”は、“烙”[焼く]という動作が実行される前に〈生〉のモノ——すなわち「既に存在しているモノ」として存在し、“烙着”[焼いている]という動作を通して〈生〉の状態から食べられる焼き上がった状態になっていく。この点はまさしく前節で指摘した B 類制作動詞の意味特徴と軌を一にするものである。例(19)において、“葱油饼”は“烙”による加工対象——すなわち対象賓語であるため、“烙着一张葱油饼”[“葱油饼”を焼いている]は許容される表現となる。

そして、例(20)の“烙了”[焼いた]という完了動作を経て〈出現〉した“葱油饼”は、状態が変化した“熟了的葱油饼”[焼きあがった“葱油饼”]を表している。“葱油饼”の焼きあがった状態は“烙了”という動作の結果であるにもかかわらず、“熟了的葱油饼”は動作・行為の対象である既に存在する〈生〉の“葱油饼”が加工されたモノであるため、本稿は、例(20)の“葱油饼”も例(19)と同様、B 類制作動詞“烙”の対象賓語であると見なす。

このように、例(19)、例(20)における“烙”のような対象賓語をとる B 類制作動詞は、結果賓語をとる A 類制作動詞とは異なり、「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式と「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式のいずれにおいても用いられることが分かる。

### 3.2 状態形容詞(A)と制作動詞(V)の意味関係

本節では、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式における状態形容詞(A)と制作動詞(V)との共起関係について考察を試みる。「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式における状態形容詞には、モノの「外観」を表す状態形容詞と、「内部状態」を表す状態形容詞の 2 タイプがある。次の例(21)、例(22)のように、モノの「外観」を表す状態形容詞は A 類制作動詞と共起する例が数多く見られる。

(21) 张木匠大大地造了一辆二马车。 (郑贵友 2000:74)

[大工の張さんは馬車を大きく造った。]

(22) 江敏方方正正地打了一个背包。 (郑贵友 2000:78)

[江敏はリュックサックを真四角に作った。]

例(21)の“大大”、例(22)の“方方正正”といったモノの「外観」を表す状態形容詞が修飾する対象は、A 類制作動詞“造”[造る]、“打”[作る]といった動作によって〈新たなモノ〉として〈出現〉した“一辆二马车”[一台の馬車]、“一个背包”[一個のリュックサック]である。認知的観点から見れば、人間はモノを認識する際、一般的なプロセスとしては、モノの外貌的特徴から内部状態へと注目していくと指摘されている(崔应贤ほか(2002))。<sup>7</sup>また、眼前にくるモノは人間の認知上特に〈目立つ個体〉であると認識されると古川(1997)も論じるように、例(21)、例(22)の“一辆二马车”、“一个背包”のような眼前に現れた〈目立つ個体〉を認識・描写する際、まず最初に目につくのは「外観」であると考えられることから、このような傾向が見られると推測できる。

一方、B 類制作動詞が用いられた例(23)、例(24)の“薄薄”、“脆脆”はそれぞれ“一张饼”の「外観」と、“一盘花生米”の「内部状態」を示している。

(23) 他薄薄地烙了张饼。 (陆俭明 1993:56)

[彼は“饼”を薄く焼いた。]

(24) 小王脆脆地炸了一盘花生米。 (卢建 2003a:100)

<sup>7</sup> 詳細は、崔应贤ほか(2002)を参照。



〔彼はカリカリにピーナッツを揚げた。〕

例(21)の“一辆二马车”、例(22)の“一个背包”とは異なり、例(23)の“一张饼”、例(24)の“一盘花生米”は〈無〉から〈有〉へと〈出現〉した〈目立つ個体〉ではない。これらは、動作・行為以前にも存在し、B 類制作動詞の“烙”、“炸”という動作によって性状変化がもたらされる「既に存在しているモノ」として認識される。それゆえ、“一张饼”、“一盘花生米”は、「外観」についてだけではなく、もたらされた「性状変化の結果」についても描写される。

このように、A 類制作動詞が用いられる「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式では、「外観」を表す状態形容詞が多く現れるのに対し、B 類制作動詞が用いられる「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式では、「外観」を表す状態形容詞と「内部状態」を表す状態形容詞のいずれもが用いられるという傾向が見られる。

#### 4. おわりに

以上、「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式と「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式の成立条件について、制作動詞の意味特徴および制作動詞と賓語の意味関係の観点から考察してきた。

先行研究においては、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式の成立には、Vが「制作」義をもつものでなければならないと一様に指摘されてきたが、本稿では、「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式の成立可否を通して、制作動詞を「A 類制作動詞」と「B 類制作動詞」の2タイプに分類した。この2タイプの動詞は共に「制作」義を上位概念としてもちながら、A 類制作動詞は「動作・行為を通して〈無〉から〈有〉へ新たなモノを〈出現〉させる」という意味特徴を有するのに対し、B 類制作動詞は「動作・行為を通して既に存在しているモノの性状に変化をもたらす」という意味特徴を有するという相違を指摘した。

また本稿では、上述の分析内容に基づき、「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式と「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」形式それぞれの成立条件についてもあわせて考察した。その結果、結果賓語をとるA 類制作動詞は「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」形式においてしか用いられないのに対し、対象賓語をとるB 類制作動詞は「NP<sub>1</sub>+A+V 了+NP<sub>2</sub>」と「NP<sub>1</sub>+A+V 着+NP<sub>2</sub>」の両形式において用いることができることを明らかにした。

最後に、「NP<sub>1</sub>+A+V 了/着+NP<sub>2</sub>」形式において「外観」を表す状態形容詞はA 類制作動詞とB 類制作動詞の両方と共起するのに対し、「内部状態」を表す状態形容詞はB 類制

作動詞と共起する傾向が強いことと指摘した。この現象については、より多くの言語事実に基づき、今後更なる考察をしていきたい。

[参考文献]

- 崔应贤等(2002)《现代汉语定语语序认知研究》,中国社会科学出版社。
- 古川裕(1997)「数量限定名詞句の認知文法—指示物の〈顕著性〉と名詞句の〈有標性〉—」,『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』,東方書店。
- 郭锐(1993)〈汉语动词的过程结构〉,《中国语文》第6期,pp.410-419。
- 何洪峰(2010)〈状态性指宾状语句的语义性质〉,《语言研究》第4期,pp.51-58。
- 李劲荣(2007)〈指宾状语句的功能透视〉,《中国语文》第4期,pp.331-342。
- 卢建(2003a)〈可换位摹物状语的句位实现及功能分析〉,《语言研究》第1期,pp.99-106。
- 卢建(2003b)〈摹物状语的引申及主观化渠道〉,《中国語学》250号,pp.68-84。
- 陆俭明(1993)《八十年代中国语法研究》,商务印书馆。
- 吕叔湘(1986)〈汉语句法的灵活性〉,《中国语文》第3期,pp.1-9。
- 马庆株(2004)《汉语动词和动词性结构·一编》,北京大学出版社。
- 潘晓东(1981)〈浅谈定语的易位现象〉,《中国语文》第4期,pp.277-285。
- 王立弟·顾阳(2000)〈“宾语指向”的状语修饰语〉,陆俭明主编《面临新世纪挑战的现代汉语语法研究》,山东教育出版社,pp.248-263。
- 邢福义(1997)《汉语语法学》,东北师范大学出版社。
- 张爱民(1996)〈形容词重叠式作其他成分的比较〉,《语言教学与研究》第2期,pp.67-78。
- 张国宪(2005)〈性状的语义指向规则及句法异位的语用动机〉,《中国语文》第1期,pp.16-28。
- 张力军(1990)〈论“NP<sub>1</sub>+A+VP+NP<sub>2</sub>”格式中A的语义指向〉,《烟台大学学报(哲学社会科学版)》第3期,pp.87-96。
- 郑贵友(2000)《现代汉语状位形容词的“系”研究》,华中师范大学出版社。
- 朱德熙(1956)〈现代汉语形容词研究〉,《语言研究》第1期,pp.83-111。
- 朱德熙(1982)《语法讲义》,商务印书馆。